

座長記者会見（第10回検証委員会終了後）概要

平成26年7月16日

(座長)

みなさんこんばんは。毎回遅くまでお待たせして恐縮でございます。今日は午後5時から始めて午後10時までということですから、延々5時間、途中10分程休憩を挟みましたが、会議を続けておりました。あと第11、12回と2回くらいを予定しておりますが、そこで最終報告をまとめるということを目指しておりますので、そのために時間を取っているということでございます。

今日は、既にお手元に（資料が）渡っているかと思いますが、いつもの議題に加えて、議題としては4つあります。いつもは2つなのですが、そこへ2つ加えまして、事業団からの報告と最終報告案の構成という形で議論しております。いつものことですが、用意された資料に基づいて、その順番で検証しているということでございまして、むしろ配布資料一覧というものが渡っているかと思いますが、その順番で紹介をさせていただきたいと思います。

資料1、2、3と参考資料1というのは、これまでの経緯でございましたので特に議論もなく進めたということでございます。

資料6のパーソナルサポーター等の「等」というのは相談支援アドバイザーが入っているということでございますけれども、相談支援アドバイザーとパーソナルサポーターの活動状況について御説明があったということでございます。

御存じのようにパーソナルサポーターは5名付いておりますけれども、かねてから外部への移行というものを検討していたのですが、内1名が今月の22日からショートステイ、外の施設を利用したショートステイが始まるということで、一つ目に見える移行が出てきたのかなということでございます。これは4日間のショートステイでありますけれども、外部の施設で泊まるということです。

それから、他の方につきましても、いろいろお試しをしております、行ったところが気に入らないと、外部のもう少し違うところをお試しして見学して様子を見るという活動が続いているところでございます。

それから、パーソナルサポーターが中に入りましてどういうことをやっているのかというと、御本人の生活の様子を見ているわけですが、その生活の様子を見て現場の支援員等に「ここはこうしたらいいんじゃないでしょうか」、あるいは「この人はこういうことを意向として持っているようだ」というようなことを伝えているわけですが、今日はその分かりやすい例が一つ出てきました。食事の時間に御本人が食べたくないものがどうもあるということなんですけれども、出された食事の中で「この部分は食べたくない」という意向

を持っておられるようだというのをパーソナルサポーターが発見して支援員に伝えて、その部分だけは食べないで済ませるということがありましたという報告がありました。

これまでも、そういうことは分かる人、分からない人というのがあったとは思いますが、パーソナルサポーターが入ることによって御本人の趣味嗜好が、支援員に見えないところであるのが支援員に伝わる。御本人の意向がちゃんと内部的にくみ取れて支援員に伝わっていくということが出来てきているということです。早速、そういうことがあるということで、その支援員を通じて施設全体に、こういうことがあるので生活環境の改善を考えましょう、となりました。食事の提供についても、違う方法を考えましょうということが施設で共有化されつつあるというような話が今日報告されています。

なので、単に外部に移行を試みるということだけでなく、施設の中での生活改善について、パーソナルサポーターが行くことによって、かなりの効果が出ているというような報告が今日あったところでございます。

それから、次の資料7以降の、社会福祉事業団の現在の改善状況ですが、これも前回に引き続きいろいろな改善をしていますというようなことが報告されました。例えば、利用者一人ひとりのモニタリング会議を施設内で始めておりますけれども、その会議には利用者の御家族の方もできるだけ来ていただくということで、御家族の方も入っていただいて利用者個人の生活についての検討会議をやっております、それが始まりましたというような報告がございました。

それから看護師と支援員の連携が従来はやや薄かったんですけれども、従来よりは連携が取れるようになりまして、連携が取れることによって、通院、外部の病院への通院の指示がかなり容易になって外部受診が増えたというような報告がございました。

それから、振り返りチェック（シート）というか、自分の支援について支援員自ら見直しているチェックリストがありますが、これが各施設で書式がちょっと違っていたのですが、各施設ごとに統一をして共有化が図れるというようなことが行われているという報告がございました。事業団の改善状況でお話することはこれくらいであります。

それから、監査・モニタリングについての検証、これは県のこれまでの対応についての検証ということになります。前回に引き続き調査報告が出ています。前回も御説明いたしましたけれども、平成14、15年にかけての内部告発に基づくところの虐待事案についての調査、これにつきましては前回申し上げましたように、立入調査を含めてかなりの調査をして、結局数名の職員についての処分を県の方から指導して事業団が行ったということでございました。これは前回話をしたことですが、その時の調査の結果が県から事業団への「通知」という形で済まされている。それから、それが結局非公表、公表されずに済んでいるということを御説明いたしましたけれども、なぜそうなのかということについて、（つまり）なぜ通知なのか、なぜ非公表だったのかについて、

引き続き調査をしていただきました。これは当時の障害福祉課の担当部局の職員と、当時の県の課長にヒアリングをしたということでございますけれども、結果的にはあまり大した情報が出ませんでした。

要するに、十数年前の話なのでよく覚えていないというような話を伺いまして、よく覚えていないのだけれども、「勧告」ではなくて「通知」にしたのは、通知の内容に勧告に相当するようなものが含まれているのでそれで十分だと思ったというような回答が返ってきたということでもあります。それから、公表するかしないかということについては、当時は一般的には公表しないことが多かったもので、この程度のことであれば公表を考えずに、深く考えないで非公表にしたという回答が返ってきたということでもあります。

現状は、それ以上の調査がございませんので、今のところ、そういう回答を基に当時はそうだったのかなということで検証委員会としては考えるしかないのかなと思っていますところでございます。

さらに、平成23、24年度に火傷事故等を含む監査の見過ごしがあったのですけれども、これにつきましても、現場でどういう書類を見たのか、県と君津の健康福祉センターとどういう情報のやりとりがあったのかということを引き続き調査しました。これは、確認という意味での調査でして、多分あまり書類を見ていないだろうなと思いましたが、県の本庁と現場の（君津健康福祉）センターとの間で連絡が密になかったと思っておりましたけれども、そのとおりの回答が返ってきました。告発メールがあったということについて、事前に（君津健康福祉）センターの方に知らされているわけでもないし、火傷についていろいろ調査をしているということが（同左）センターに知らされているわけでもない。そういう状況の中で現場に監査に入って行って、特に注意することなくそれを見過ごしたという回答結果になっております。

要するに、通常監査やこれまでの県の情報共有のあり方でいきますと、同じようなことをやっていると同じような事態がまた生じるということが確認されたということでもあります。

それから、強度行動障害者の支援状況等につきまして本日データが示されました。参考資料2、3ということで皆さんの元に渡っているかと思いますが、これは県内の各施設を利用されている方の中で強度行動障害だと思われる方が何人くらいいますかということを、各施設に判定していただいた表でございまして、その結果として、実は袖ヶ浦（福祉センター）だけが強度行動障害者を受入れているのではなくて、県内各地でもって各施設に強度行動障害だと思われる方がいらっしゃるという認識を各事業者の方々が持っておられる。これを示すというのが参考資料2の表になります。

袖ヶ浦（福祉センター）だけでなく、いろいろなところにいらっしゃるということが分かると同時に、実は児童の施設については、福祉圏域の中に児童の障害者を受ける施設がないという地域があって、児童については施設自体が手薄だなということもこの表を御覧いただくと分かるということになるかと思えます。今日そういうデータが出たということでございます。

そういう中で、袖ヶ浦（福祉センター）強度行動障害の方々はどういう受入れ方をしていくのかということについての事業概要が示されたということですが、これは特に議論しておりません。我々検証委員会は既に知っていることなので。今日は資料として添付させていただいたということでございます。

それに続きまして、第五次障害者計画についての説明がございました。これは、既に障害者計画の策定作業が進んでいるわけですが、その中に我々検証委員会の最終報告を盛り込むということになりますので、どういう形で盛り込むのかということが障害者計画の骨子案等を含めて説明された上で議論したということでございます。盛り込むものにあたっては、まだまだ項目をこれから決めるところですので、いろいろな意見が出ましたけれども強度行動障害についての項目を入れるべきである、あるいは虐待防止という項目を入れるべきであるというような意見が出たところでございます。

その後、事業団の理事長の説明と最終報告案の説明を受けて今後の方針を検証委員会で議論したということになります。両方とも大変議論が盛り上がりまして、これで予定した時間をオーバーしたのですが、事業団の中でもこの間、理事運営会議という通常の理事会とは異なるものを何回か開いておられるということは既に前回説明をさせていただいたかと思いますが、今回も今後の袖ヶ浦福祉センターと事業団のあり方について理事会の方でもいろいろ検討されておりまして、その意見を今日伺いました。

元々、検証委員会のメンバーであった方が理事長ですので、基本的な発想は我々と共有しておりまして、いろいろ御説明いただきましても基本的には我々も賛同するところであります。基本的には、現在の袖ヶ浦の利用者の規模を少なくするという、強度行動障害、いわゆる重い方々を重点的に扱うという県立施設（の運営者）としての役割を脱却して、一社会福祉法人が運営する一障害者施設となることの目標設定をすること。拠点施設という言い方をしますが、千葉県内にいくつかある施設の中の一つであるという位置付けを目指すというお話がございました。ダウンサイズをしていくにあたっては、更生園と養育園の位置付けが違います。養育園は児童の施設ですが、現在は新規受入れを停止しておりますので、新しく卒業される方は、今は過渡期で十八歳を超えても何人かの方がいらっしゃるんですけども、それが駄目だということにあと1、2年（平成29年度末）でなります。そういう方々が卒業されると同時によそへ移りますので、毎年10人程度の規模で人数が減ってまいります。ということで、自然的に養育園の人数は減っていくという見通しをお示しいただきました。ただ、人数が減って新規受入れを停止するということは、これまで入っていた人たちがどこかに行かなければいけないということです。先程申し上げましたように、県内各地に障害児の受入施設がない地域というのがありますので、そういったところ（の障害児）を受け入れていた実績が袖ヶ浦（福祉センター）にもあるわけで、ダウンサイズして（袖ヶ浦福祉センターでは）受け入れないということになりますと、そういう方々を受け入れる県内施設が別にないけないということになります。他の施設で障害児を受け入れる施設を、県とし

ては早急にお作りいただきたいという要望が理事会から出ていたということでございます。これは、我々としてもそうだろうなというふうにお聞きしていたところでございます。

それから、更生園の方は成人施設でございますので、他の施設が積極的に受け入れられるような取り組みをしたいわけですね。更生園におられる方々の障害の程度を、更生園の中で独自にいくつか分類して、「この方については向いている受入れ施設はこうだろう」というような分類をして、施設外に、袖ヶ浦ではない、事業団ではない、いろんな施設で受け入れられるような県の取り組みとして違う施設を作ることによってそこへ受け入れてもらおうというようなことを考えていると御説明をいただきました。

それやこれやで、事業団としてもダウンサイズをして民間を目指すという方向性を持っているという御説明があったということでございます。

その一環として、今日検証委員会として議論したことは、現在事業団は指定管理事業をやっておりますけれども、養育園、更生園以外にいくつかの事業を県の指定管理とは関わりなくやっておられます。これについては、まだ理事会の方でもはっきり結論を出しておられないようですが、検証委員会の今日の意向としては自主事業は切り離した方がいいでしょう、事業団から他の法人へ移すということですね、自主事業と指定管理を混在してやっておりますと、なかなか事業団の中の運営自体が非常に複雑なことになりますので、指定事業としてやっている限り、自主事業は切り離すという方向で考えた方がいいのではないかという意見が出たところでございます。

それから、理事会からも出た意見ですし、これは我々からも賛成したことですけれども、内部の利用者の生活レベルを改善するために、特に養育園については早急にユニット化、今は広いところに全員いるわけですけれども、それを4人1単位くらいのユニット施設にして、そこに食事ができる場所、休憩できる場所を作るという改造をしたいという意見が出てきております。そういった形で、ユニット化、建物利用状況を改善すると同時に、将来的にはできれば建て直したいということ、これは何年になるかわからないということです。

そういう改善をしていくなかで、中長期的には民間移行を考えていきますということですが、県内各地に児童受入れ施設、成人受入れ施設ができるということを前提にして、県内にある一つの施設、行動障害も受け入れられる施設の中の一つとしての位置付けを目指しいろいろ改革をするということでもありますけれども、その改革のためのダウンサイズ等の作業を集中的に行うという期間として、既に策定を始めている第五次計画が終わるくらいまでの頃を目途にそういう改革をしてはどうかというような意見が今日検証委員会の中で出ていたところでございます。時期的に言うと、平成29年度の末あたりまでにそういう改革をしようと、その改革が済んだあと、ダウンサイズしていますので、ダウンサイズをして、かつ養育園、更生園を一緒にの法人がやるという必然性があると思いますので、性格が違いますからこれを分けて違う法人で運営するということがあってもいいという考え方をしております。いずれにしても民間

の法人が受け入れやすいような形態まで持っていくということを考えているということでございます。

以上、速足でございますけれども、私の方から出た今日の議論の説明としては以上でございます。

(記者)

この配布資料一覧の、先程おっしゃられた第五次計画に関する部分だが、ここに最終報告が盛り込まれることが決まっているということか。それから、項目をまた今後決めるというような話があったが、盛り込む場合にその項目というのは、これは県が決めるのか、今回委員会の方でここを盛り込んでくださいということで検証委員会の方で決めるのか、どうなっているのか。

(座長)

第五次計画自体を策定するのは、その策定のための委員会がありまして、これは57、58ページにございますけれども、障害者施策推進協議会という法定の委員会が計画を作る(議論をする)ということになっております。なので、県だけで決めるわけでもないし、我々検証委員会でもなく、この推進協議会の審議にもとづいて県が決めるものなのですが、この委員会が決めるにあたって、こういう内容を盛り込んでくださいということは当然、各関係セクションから出るわけですし、我々検証委員会としてもこの項目を見た上で、こういうものを盛り込んでくださいというような形で意見具申をするということになります。

我々の最終報告案を盛り込んでくださいということはもちろん申し上げますが、最終報告案が添付されるわけではなくて、最終報告案が実現されるように中身の中に入れてくださいということです。もちろん施策推進協議会の中にも、施策推進協議会に意見を上げる総合支援協議会というものがありますが、その両方に現在のところですが私は入っておりますので、検証委員会のメンバーとしてそういう意見は両方を通じて当然上げていくという形になります。

(記者)

資料8にある最終報告(答申)構成(案)について確認なのだが、これまでの議論の中で、県の責任についても検討するというような話になっているかと思うが、これを見る限りにおいては、例えば県の責任がどうだったかということについては、単独の項目としてやるのではなくて、それぞれの項目の中でいろいろ表記される中で、それぞれの項目ごとに県の責任がどうだったかというのを書くということになるのか。どういう形になるのか。

(座長)

今日はそのあたりの議論をしなかったのですが、御指摘を受けるようにそう

ですね、どちらにしても書かないといけないことだと思います。今日は疲れ果ててというか、そこまで議論が及ばなかったのですが、今後検証委員会の議論の中で是非入れていかないといけないと、今ご指摘を受けて私も（考えます）。

監査モニタリングの問題も入りますので、ちょっと検討させていただきたいと思います。

（記者）

最終報告構成の資料8について、「今後のセンターのあり方について」という項目があるが、この中で言うと、これまでの議論の中で方向性がまとまっているなという項目があるのか。例えば自主事業を切り離すというところがこの中に入ってくると思うのだが、最終報告はこういう方向で行くということなのか。

（座長）

検証委員会ではそういう方向ですね。

（記者）

自主事業を切り離すということ以外では何か。

（座長）

ダウンサイズ、それから今日異論が出なかったので、多分養育園、更生園については運営主体としては分離する、違う法人が運営していくでしょうということ。検証委員会レベルでいうと、ほぼ異論のないところなのかなと言っていると思っております。

（記者）

違う法人が運営するということは、今の社会福祉事業団ではなくて、別の法人に養育園も更生園もその他の事業も（運営するの）か。

（座長）

同じ法人が受けるとは限らないというより、別々の法人になると思いますけれども、どこか民間の法人が受けて運営をしていく。その時は県立でないかもしれません。（将来的には）県立でなくなる可能性が高い。そこははっきりしませんが、（将来的には）県立でなくなる可能性は高いですね。

（記者）

そういう答申にしていくということか。

（座長）

はい。

受け入れてくれる民間が出るくらい、きちっとした整備をしてからということになります。それを集中見直し期間で整備するわけですが、結局ここはなかなか難しく、どこも受け入れてくれるところがあれば、(利用者を)ほうりだすわけにはいかないので、引き続き事業団ということもあるわけですが、あるいは事業団が組織替えして違う組織になって受けていくこともあるわけで、いろんな形態の民間（への運営の）移譲を考えようという方針をはっきりさせました。

(記者)

それは今日の委員会ではっきりしたということか。

(座長)

今日初めて出たわけではなくて、何回か議論を重ねていますが、今日のところで最終報告には入れようかという議論になっております。

あまり利用者の数が多いと、我々はダウンサイズというのをかなり前から申し上げておりますけれども、もちろんダウンサイズしないと利用者にとっていい環境を作れないということが先行しておりますけれども、ダウンサイズをしていい環境を作るということを前提にしないと、今の民間の人たちが受けない（ということでもあります）。民間の人でも受けられるような環境作りという意味でもあります、ダウンサイズは。

(記者)

ダウンサイズの話は前から出ているが、半分くらいにするという話だったか。

(座長)

そうですね、我々の目標としては。

(記者)

だいたい170人くらいから半分ということか。

(座長)

そうですね。

(記者)

今のお話でいろいろ考えると、現状ある体制からそもそもダウンサイズをして、自主事業を切り離して、養育園、更生園の運営を分離して、場合によっては民間移譲ということになると、要は事業団の解体ということか。

(座長)

解体という表現なのかは（わからない）。

(記者)

そうすると、事業団が何もやることがなくなる可能性があるかと。これは実質的な事業団の解体を意味するということにとれなくはない。

(座長)

事業団の解体と言ってもいいですし、事業団の再生と言ってもいいですし。事業団と言わなくてもいいんですけども、今あそこにいる施設の利用者と職員の皆さんが、よりよい環境で生活できるような仕組みを作るというだけのことですね。やり方はどちらでもいいので、表現はどちらでもあまり変わりがないと思っています。

ただ、ダウンサイズするということは、他のところで今の状態よりもいいところがないと駄目ですから、それを県がきちっと作っていく。今袖ヶ浦以外のところできちっと作っていくという作業が伴わないと駄目なので、事業団だけの問題にはならないということで、それを集中見直し期間に県がやるという前提で検証委員会もそういう方向を出すということです。よそでそういうものを作って、事業団の役割、(袖ヶ浦福祉)センターの役割を見直し、法人も組織替えをしていくという結果として、それを解体というか再生というか変更というか、それはどうでもよくて、呼び方の問題だと思います。

第10回委員会における進行順の配布資料一覧

① 第9回委員会後の経過

- 資料1 第9回委員会における主な意見
- 資料2 第9回委員会後における座長記者会見録
- 資料3 第9回委員会理事長報告概要
- 参考資料1 県立施設千葉県袖ヶ浦福祉センター対応に関する主な経過について

② パーソナルサポーター等の活動状況

- 資料6 パーソナルサポーター等活動状況
- 別冊資料1 パーソナルサポーター等の報告

③ 社会福祉事業団の改善状況

- 資料7 県確認調査概要[当面の改善計画の進捗状況確認]
- 別冊資料2 改善計画進捗状況月次報告
- 別冊資料3 県確認調査結果[当面の改善計画の進捗状況確認]
- 別冊資料4 第3回虐待防止委員会（7/3）議事概要
- 別冊資料5 検証委員会議論に対する社会福祉事業団における改善の検討状況等

④ 監査・モニタリング県担当者ヒアリング

- 資料4 第9回監査担当者ヒアリング検証概要
- 資料5 過去の監査・モニタリングの県担当者の追加ヒアリングの実施
- 別冊資料6 過去の監査・モニタリングの県担当者の追加ヒアリングの概要

⑤ 強度行動障害者の支援状況等

- 参考資料2 障害保健福祉圏域別強度行動障害者数
- 参考資料3 袖ヶ浦福祉センター強度行動障害支援事業概要

⑥ 第五次千葉県障害者計画等

- 参考資料4 障害保健福祉圏域別知的障害者・児入所施設数及び定員数
- 参考資料5 第五次千葉県障害者計画策定の概要

⑦ 千葉県社会福祉事業団理事長からの報告

- 別冊資料7 理事運営会議における議論の状況

⑧ 最終報告（答申）等

- 資料8 最終報告（答申）構成（案）
- 別冊資料8 検証委員会に係る当面のスケジュール（案）
- 別冊資料9 今後の袖ヶ浦福祉センターのあり方（見直しの方向性）について
（これまでの議論の整理）